

ロッテの考えるマテリア

(株)ロッテは、創業以来一貫して、「ユーザーオリエンテッド(お客様第一)」「オリジナリティ(独創性)」「クオリティ(最上の品質)」という3つのロッテバリューをすべての企業活動の基本としています。これらを掲げた企業理念のもと、お客様をはじめ、地域や社会に新たな価値を提供することで、成長し続けてきました。

例えば、1997年発売の「キシリトールガム」は、歯を丈

夫で健康に保つという新しい価値を生み出し、社会に貢献してきました。近年では、持続可能な社会の実現に一層貢献するため、ISO26000を活用した取り組みを推進しています。さらに、社会に及ぼす影響や事業活動における重要性をもとに、取り組むべき重要課題(マテリアリティ)を抽出・整理しました。今後はそれぞれについて具体的な目標を定め、実現に向けて取り組んでいきます。

▶ マテリアリティとESG中期目標の策定プロセス

STEP 1

課題の把握

社会的責任に関する国際ガイダンス規格であるISO26000をもとに課題をリストアップ

STEP 2

マテリアリティの抽出

リストをもとに、主要なテーマごとにグループディスカッションを実施し、事業活動における重要性を討議

STEP 3

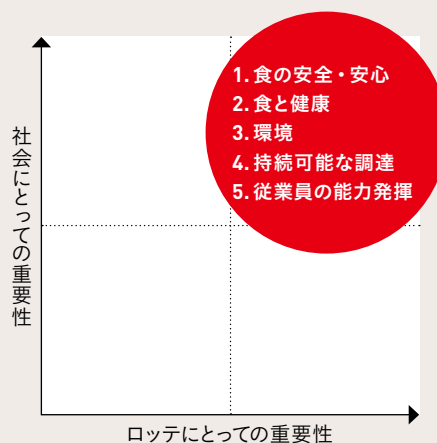
有識者とのダイアログ

外部有識者と幅広い観点で「ロッテが重視すべき取り組み」について意見交換

STEP 4

マテリアリティの整理

STEP2のディスカッションおよび、STEP3のダイアログをもとにマテリアリティを整理



STEP 5

中期目標の策定

マテリアリティに対する中期目標の策定と、実現のための取り組みを検討
(詳細はP10以降をご覧ください。)

アリティ

SDGsについて

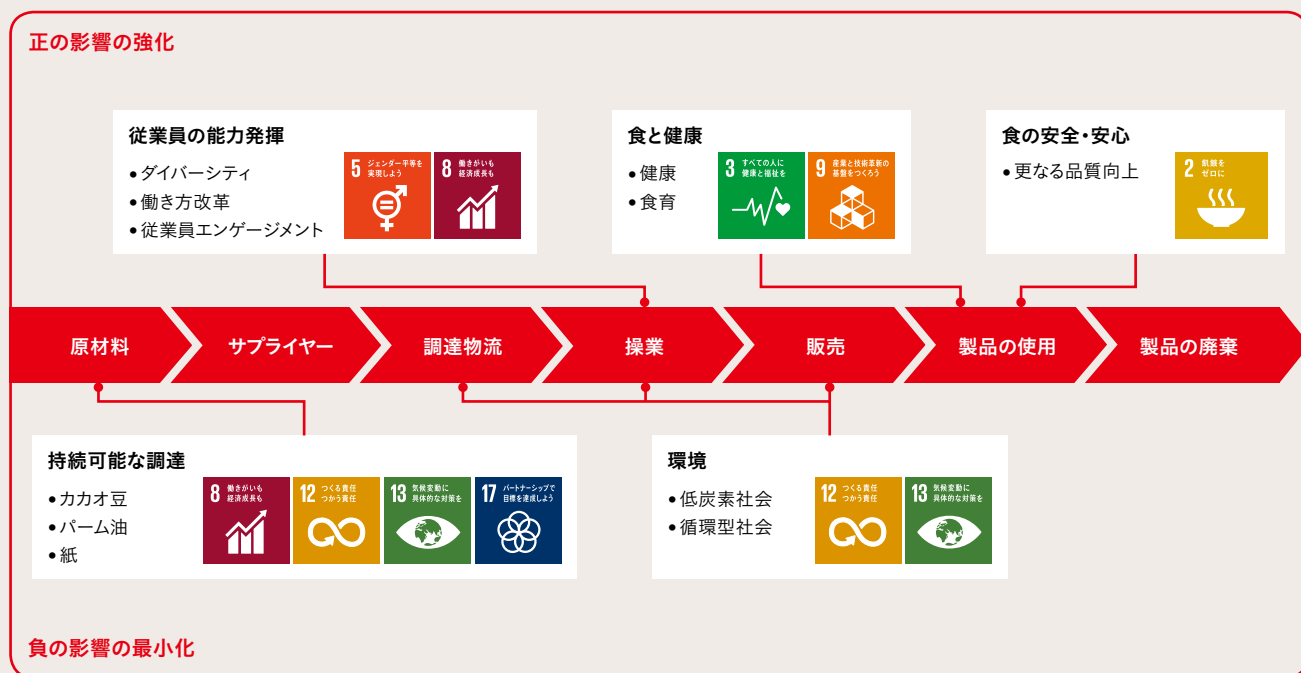
国連は2015年、貧困や不平等、不公正の撲滅、気候変動への対応など2030年までに達成すべき17のゴールとして「持続可能な開発目標(SDGs)」を採択しました。SDGsは単なる期待目標ではなく、世界中の政府、地域社会、企業に対し広く協力を求め、人類と地球の繁栄の実現を目指す具体的な行動計画です。

世界では今、SDGs達成とより良い世界の構築に向けて、企業が長期的視点に立った枠組みを策定し、積極的にサステナビリティに貢献することが期待されています。



▶ バリューチェーンにおけるマテリアリティマッピング

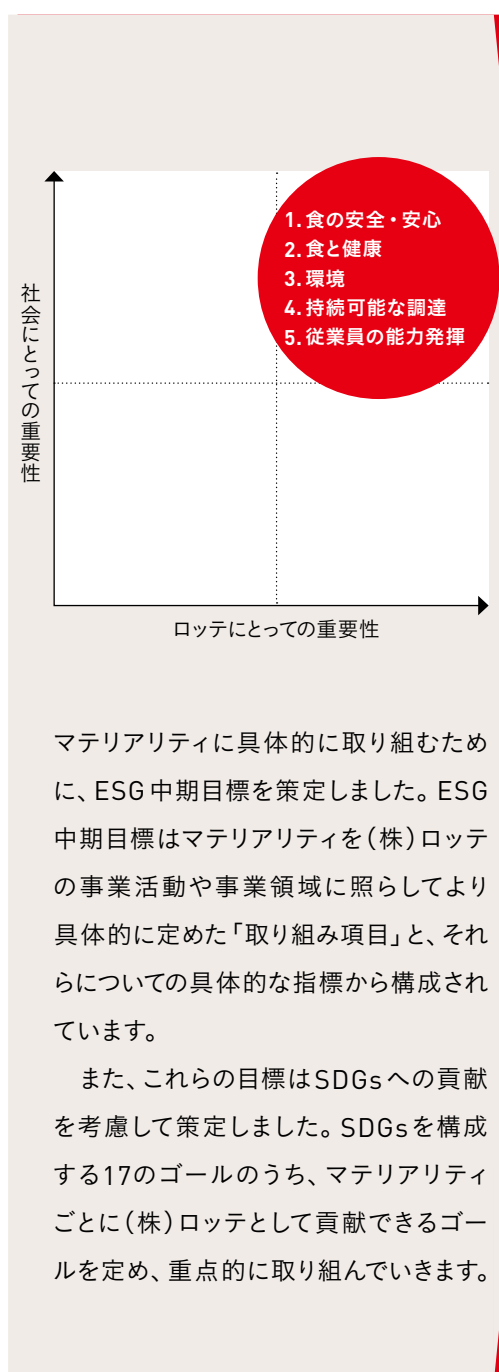
各マテリアリティのバリューチェーン上での影響を分析し、それぞれのマテリアリティが「正の影響の強化」もしくは「負の影響の最小化」に貢献するかを特定しました。



(注)SDG Compassを参考に作成

ロッテのマテリアリティとESG中期目標

マテリアリティマップ



マテリアリティ	SDGsへの貢献
1 食の安全・安心 ▶ P12	2 食料をゼロに ▶ 食の安全・安心の確保
2 食と健康 ▶ P13	3 すべての人に健康と福祉を 9 産業と技術革新の基盤をつくろう ▶ 咀嚼による健康への貢献 ▶ 健康な食生活に貢献する製品の創造と普及 ▶ 食に関する正しい知識の普及
3 環境 ▶ P14	12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を ▶ 温室効果ガスの排出削減 ▶ 食資源枯渇への対応 ▶ 循環型社会の実現へ貢献
4 持続可能な調達 ▶ P15	8 働きがいも経済成長も 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 17 パートナリシップで目標を達成しよう ▶ 持続可能なサプライチェーンの実現
5 従業員の能力発揮 ▶ P16	5 ジェンダー平等を促進しよう 8 働きがいも経済成長も ▶ 多様性の尊重による事業競争力強化 ▶ 生産性向上による労働力不足への対応

(株)ロッテは、事業活動を通じて取り組むべきマテリアリティとして「食の安全・安心」「食と健康」「環境」「持続可能な調達」「従業員の能力発揮」の5つのテーマを設定しました。これらは社会と共に持続的に発展し続けるために欠かせないものであり、グループ全体で取り組みを推進していきます。そのために、ESG中期目標を策定し、具体的な指標を定め、各部門の計画に反映していきます。また、目標の達成に向けて、毎年進捗を確認し、情報公開に努めていきます。各目標とその達成に向けた取り組みの詳細については次ページ以降で紹介しています。

ESG 中期目標

取り組み項目	指標	2023年目標	2028年目標
更なる品質向上	GFSI 承認スキーム (FSSC22000/BRC)	国内外全工場で 認証維持	国内外全工場で 認証維持
	ロッテ新品質保証システム「LOTTE ADVANCE」 の導入	国内外全工場へ 導入完了	国内外全工場で 継続運用
健康	「噛むこと」を意識して実践している人の割合 (国内)	35% 以上	50% 以上
	製品を通じた健康な生活への貢献人数 (国内)	3,456万人 以上	さらに拡大を目指す
食育	食育受講者数	年間10万人 以上	年間15万人 以上
低炭素社会	CO ₂ 排出量削減率 (2013年度比 原単位)	13% 以上削減	26% 以上削減
循環型社会	食品ロス削減率 (2017年度比 原料受け入れ～納品)	25% 以上削減	50% 以上削減
	生産工程から排出された廃棄物のリサイクル率	99% 以上 (国内)	99% 以上 (国内+海外)
カカオ豆	フェアカカオ使用率	20% 以上	50% 以上
パーム油	第三者認証油使用率	100% (国内)	100% (国内+海外)
紙	環境に配慮した紙使用率 (製品の包材)	100% (国内)	100% (国内+海外)
ダイバーシティ	女性管理職比率 (国内)	10% 以上	20% 以上
働き方改革	一人当たり年間総労働時間 (国内)	1,850時間 以下	1,800時間 以下
従業員 エンゲージメント	働きがいを感じている社員割合 (国内)	80% 以上	80% 以上維持

1 食の安全・安心



基本的な考え方

製品づくりにあたっては、安全・安心で高品質であることはもちろん、「楽しさ」「おいしさ」「やすらぎ」の付加価値が感じられることも不可欠であると考えています。それらすべてを私たちの実現すべき「品質」とであるとみなし、全従業員で品質の向上に取り組んでいます。

更なる品質向上

GFSI 承認スキーム (FSSC22000/BRC)

すでに、国内外のすべての工場でGFSI承認スキーム(FSSC22000/BRC)認証を取得しています。世界70か国の流通・食品大手約400社が組織したTCGF(The Consumer Goods Forum)が運営するGFSI(Global Food Safety Initiative)が承認している規格で、HACCPに基づくISO22000に追加要求事項を加え、さらにフードディフェンスなど食品安全対策についても定めた世界標準の食品安全規格です。

▶ 詳細はP40へ

新品質保証システム「LOTTE ADVANCE(ロッテアドバンス)」の導入

今後、更なる品質の向上と情報発信を目指し、独自の新品質保証システムを構築・運

用していきます。このシステムは、現在取得している食品安全の認証であるGFSI承認ス

キーム(FSSC22000/BRC)をベースに、品質マネジメントシステムの国際規格である

ISO9001の設計開発システムの考え方を取り入れ、独自のルールによって構成されています。順次、新品質保証システムに係る基準やガイドラインの整備と体系化を行い、2023年度までに国内外のすべての工場に展開していきます。

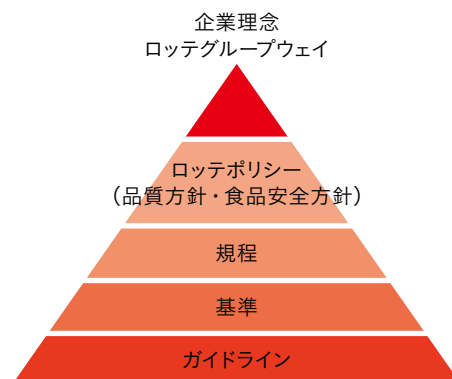
▶ 詳細はP40へ

LOTTE ADVANCE

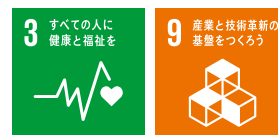
LOTTE ADVANCEの構成



LOTTE ADVANCEに係る基準・ガイドライン体系



2 食と健康



基本的な考え方

私たちは、創業以来培ってきた知見や技術を活かし、地域や社会に新たな価値を提供することで、成長し続けてきました。例えば、1997年発売の「キシリトールガム」は、歯を丈夫で健康に保つという新しい健康価値を生み出し、社会に貢献してきました。引き続き、身体はもちろん、心の健康にも役立つ製品の研究・開発や情報発信・啓発活動に注力し、私たちが大切にしてきた「おいしさ」を軸に、食で健康価値を提供し、社会課題の解決に貢献していきます。

健康

「噛むこと」を意識して実践している人の割合(国内)

チューインガムで創業した私たちは、長年「噛むこと」について研究を重ねてきました。「噛むこと」は食をつかさどる基本的な身体機能であると同時に、脳や心、身体にまで多大な影響を及ぼしていることが明らかになっています。「噛むこと」の重要性や研究成果の発信を通じて、「噛むこと」を普及させ、人々の豊かな生活に貢献できるよう取り組んでいます。

▶ 詳細はP43-45へ

製品を通じた健康な生活への貢献人数(国内)

健康意識の向上や少子高齢化、食生活の多様化といった社会変化を背景に、「おいしさ」だけでなく「身体にいい」ものを「手軽に」摂りたいという消費者ニーズが高まっています。創業以来培ってきた知見や技術を活かし、新しい健康価値を持つ製品を開発することで、お客様の健康な生活へ貢献していきます。

▶ 詳細はP45へ

食育

食育受講者数

食は健康の源と考え、正しい食に関する知識や理解を深める食育活動に取り組んでいます。工場見学や手作り体験教室、出張授業など様々な機会、健康な食生活に役立つプログラムを参加者に合わせて分かりやすく提供していきます。

▶ 詳細はP46-47へ

2023年目標

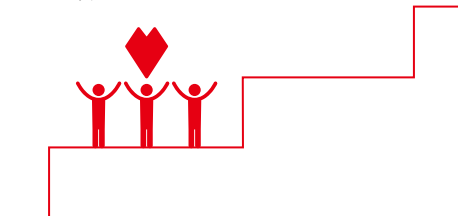
2028年目標

35%以上

50%以上

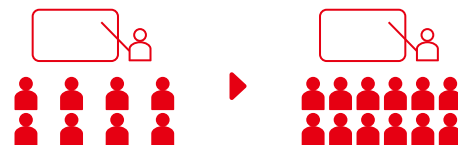


3,456万人
以上



年間10万人
以上

年間15万人
以上



3 環境



基本的な考え方

地球環境の保全は生命の存続に係わる最重要課題であり、私たちのビジネスも地球環境の恩恵を受けて成り立っています。こうした考えのもと、持続可能な地球環境の実現に貢献することを重大な責任の一つと捉えています。中でも「低炭素社会」と「循環型社会」の実現に向けた貢献を重点的に取り組む課題と位置付けています。

低炭素社会

CO₂排出量削減率

CO₂排出量削減による温暖化対策は、持続可能な地球環境の実現のために欠かせない取り組みです。排出量削減目標を設定し、省エネルギー活動と再生可能エネルギー導入の両面からグループ全体で取り組むことで、目標達成を推進していきます。

▶ 詳細はP30へ

2023年目標



(注) 2013年度比 原単位

2028年目標



循環型社会

食品ロス削減率

食品企業の責任として、原料受け入れから納品までに生じる食品ロスを2028年度までに、2017年度比で半減させるという目標を掲げました。目標達成に向けて、バリューチェーンの各部門で取り組みを実施するとともに、フードバンクなどを活用した食品の有効利用を推進していきます。

▶ 詳細はP33へ

25%以上
削減



(注) 2017年度比 原料受け入れ～納品

50%以上
削減



生産工程から排出された廃棄物のリサイクル率

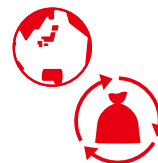
有限な資源を無駄なく使い、廃棄物の発生を抑制することはもちろんですが、発生した廃棄物については徹底的に有効利用し尽くすことが重要と考えています。そこで、各工場の生産工程から排出される廃棄物を99%以上再資源化することを目標に掲げ、取り組んでいきます。

▶ 詳細はP32へ

99%
以上
(国内)



99%
以上
(国内+海外)



4 持続可能な調達



基本的な考え方

高品質な製品・サービスを安定的にお客様にお届けするためには、安全・安心であることはもちろん、環境や社会にも配慮した、持続可能な原材料の調達が重要だと考えています。これを実現するため、取引先や業界内外のステークホルダーと連携して、サプライチェーン全体で持続可能な調達活動を推進しています。

カカオ豆

フェアカカオ使用率

世界的にカカオ豆の需要が拡大しており、カカオ豆を持続的かつ安定的に調達することは事業活動にとって重要な課題です。そのため、(株)ロッテではカカオ豆の生産地に寄り添い、現地の経済的・社会的発展に貢献する調達活動を「Fair Cacao Project (フェアカカオプロジェクト)」と名付け、その活動に基づいたカカオ豆の調達を拡大していきます。



▶ 詳細はP36-37へ

2023年目標

20%以上



2028年目標

50%以上



パーム油

第三者認証油使用率

チョコレートやビスケット、アイスクリームなど多岐にわたる製品でパーム油を使用しています。パーム油の持続可能性に取り組むために、RSPO (持続可能なパーム油のための円卓会議) などの第三者認証を取得したパーム油の使用を拡大していきます。

▶ 詳細はP38へ

100%
(国内)



100%
(国内+海外)



紙

環境に配慮した紙使用率(製品の包材)

森林資源を有効利用し、地球温暖化防止に貢献するため、環境に配慮した紙の調達を推進しています。具体的には、FSC (森林管理協議会) などの第三者認証紙や再生紙などの利用を拡大していきます。

▶ 詳細はP38へ

100%
(国内)



100%
(国内+海外)



5 従業員の能力発揮



基本的な考え方

事業を支える最も重要な基盤は人材です。私たちは、従業員一人ひとりが持てる力を存分に発揮し、いきいきと活躍できる環境を整えることで、企業の持続的な発展へとつなげていきます。

ダイバーシティ

女性管理職比率(国内)

多様な人材が持てる能力を最大限に発揮できるよう、ダイバーシティを推進し、イノベーションの創出を促進します。まずは、女性管理職比率を指標として、企業だけでなく社会全体の喫緊の課題である「女性活躍の推進」に取り組み、性別に関係なく活躍できる制度・風土を整備し、ダイバーシティを推進していきます。

▶ 詳細はP24-25へ

2023年目標

2028年目標

10%以上



20%以上



働き方改革

一人当たり年間総労働時間(国内)

一人ひとりが働きやすい職場づくりに向け、生産性向上による労働時間削減に取り組み、「ライフ・ワーク・バランスの実現」を目指します。一人当たり年間総労働時間の削減を指標として、在宅勤務やスライドワークなど、働きやすい環境整備を進めるとともに、従業員の意識改革にも取り組み、心も身体も健康で、充実した生活の実現を目指します。

▶ 詳細はP25へ

1,850時間
以下



1,800時間
以下



従業員エンゲージメント

働きがいを感じている社員割合(国内)

一人ひとりがいきいきと働き、自らの成長と働きがいを感じられる職場づくりに取り組み、「従業員エンゲージメントの向上」を目指します。定期的に、国内の全社員を対象とした「社員意識調査」を実施し、従業員エンゲージメントの指標である「働きがい」を定量的に把握し、課題の抽出と改善に向けた取り組みを継続していきます。

▶ 詳細はP26へ

80%
以上

